

1.研修プログラムの名称

脳神経外科研修プログラム

2.研修概要（理念・特徴）

脳神経外科学講座は新都心の脳神経外科の基幹病院として脳神経外科疾患の全領域に対して最先端の高度先進治療を行っています。又迅速な診療が必要な超急性期・急性期の脳血管障害や神経外傷に、救命救急センターと連携しながら対応し、脳卒中診療に対して脳神経外科、高齢診療科、神経内科にて 24 時間当直体制としております。

3.到達目標

脳神経外科学を通じて神経疾患の基本な知識、技術の修得と人間性豊かな臨床医の教育」を臨床研修目標としています。一般に敬遠されがちな神経疾患や意識障害の診断治療を基本から系統的に習得することができます。

4.指導体制・方略

原則的に診療チーム（3 人～4 人）に配属される。主任指導医の管理下に研修カリキュラムに則った有機的な研修を、手術、病棟診療を中心に行う。

5.週間予定表

	月	火	水	木	金	土
7:40 ～9:00	検討会(抄読会)	検討会	検討会後教授回診	検討会	脳卒中合同カンファレンス	検討会
9:00 ～12:00	手術	病棟回診	手術	病棟回診 手術	手術	病棟回診
13:00 ～17:00	手術、検査 病棟回診	検査	手術、 病棟回診	手術、検査 検査	手術、血管内 手術 病棟回診	(なし)

6.カンファレンス

-
-

7.研修活動

- 週 1 回いずれかの日に当直
- キャンサーボード（手術、化学療法、放射線治療、月一回）
- 脳卒中カンファレンス(月曜～金曜)
- 神経病理カンファレンス(不定期)
- 神経放射線読影(2 ヶ月毎)
- 他学講師による大学院セミナー (不定期)
- ドライラボ(4, 5, 6 月、合計 6 回)

8.評価

1) 研修医自己評価

患者記録表、教育的行事の参加記録並びに経験記録表に記録する

PG-EPOC を用いて自己評価を行う

研修事後レポートを用いて自己評価を行う

2) 指導医による評価

PG-EPOC を用いて評価する

研修事後レポートより評価する

3) コメディカルによる評価

PG-EPOC 又は評価表を用いて評価する

他者評価表を用いて評価する

4) 研修医による評価

PG-EPOC を用いて指導医（上級医）、診療科・病棟、研修医療機関、プログラムを評価する

9.その他特記事項

本教室の特徴：

- 脳神経外科の主要 4 大疾患（脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、先天奇形）の症例数が豊富で、偏りもなく早期に経験できる。特に頭蓋底良性腫瘍は日本で最多の症例数を誇り、聴神経腫瘍においては世界レベルの症例数である。
- 救急医学講座、神経内科、高齢診療科、小児科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、病理診断科等の他科との関連講座と良好な協力体制があり、集学的医療の研修が可能である。
- 海外、国内一流施設に 1～2 年の留学可能である。
- 脳神経外科の各分野、部門のエキスパートがおり、研究や高度な診療について直接指導が受けられる。
- 脳神経外科専門医の高い合格率を誇る。
- 院内の他科よりも早期に助手に昇進する。また関連病院が多くあり早期に有給職となる。
- 修得可能な資格
 - 1) 医学博士
 - 2) 日本脳神経外科専門医
 - 3) 日本脳卒中学会専門医
 - 4) 日本脳神経血管内治療学会専門医
 - 5) 脳卒中の外科技術専門医
 - 6) 神経内視鏡技術認定医
 - 7) 日本がん治療認定医 他

10.研修中に作成する病歴要約

（赤太字必ず作成する、太字可能なかぎり作成する、他 対象疾患を診察したら作成する）

経験すべき症候

もの忘れ、**頭痛**、**めまい**、**意識障害・失神**、けいれん発作、**視力障害**、心停止、呼吸困難、嘔気・嘔吐
便通異常(下痢・便秘)、腰・背部痛、**運動麻痺・筋力低下**、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、興奮・せん妄
抑うつ、終末期の症候

経験すべき疾病・病態

脳血管障害、**認知症**、**高血圧**